

## MOX燃料の装荷を止めるために 経産大臣宛の質問・要望書の提出団体になってください

### 国への要望事項

玄海・伊方・浜岡原発へのMOX燃料の装荷を許可しないでください  
原発現地を核のゴミ捨て場にするプルサーマル計画を凍結してください

使用済MOX燃料の「処理の方策」は決まっていない

プルサーマルが開始されれば原発現地が核のゴミ捨て場になってしまう

玄海3号機・伊方3号機・浜岡4号機プルサーマル用のMOX燃料を積んだ船が5月後半にも到着します。このMOX燃料が原発の炉内に装荷されれば、3～4年後には使用済MOX燃料が炉内から取り出されます。しかし、その使用済MOX燃料が具体的にどこに搬出されるのか、国からは何も具体的な説明がありません。地元原発内に永久に置かれるのではないかと、住民・市民の間に不安が広がっています。

この住民の不安を背景に、プルサーマルが計画されている松江市、北海道などの自治体からも国に対して「使用済MOX燃料の処理について具体的に明らかにするよう」要望書などが出されています。しかし国は、「発電所に貯蔵する」「国として責任をもって取り組む」と答えるだけです。結局、使用済MOXの処理の方策は何も決まっていないのです。

私たちはグリーン・アクションと共同で4月23日に福井県に対して、使用済MOX燃料は永久に原発プールに溜まり続けるため、閉電に対しプルサーマル計画を中止するよう要請してほしいと要望書を提出しました。原子力対策課長は、国の政策では再処理することが基本シナリオとなっていると繰り返しながらも、「使用済MOX燃料が無期限に原発内で保管することは認められない」「現状は遅れており、問題が生じている」とも述べました。国のシナリオが完全に破綻している現実そのものを前にして、ジレンマを隠すことはできませんでした。

●国との交渉は、5月18日で申し込んでいます。

●提出団体募集の暫定的なしめ切り：5月12日頃

(国との交渉日が正式に決まれば、最終しめ切り日を決定します)

●提出団体になっていただける場合は、メールかFAXでご連絡ください。

[mihama@jca.apc.org](mailto:mihama@jca.apc.org) FAX: 06-6367-6581

(この質問・要望書の連絡団体は、グリーン・アクション/美浜の会/福島老朽原発を考える会/原子力資料情報室です。)

---

## ◆ 六ヶ所再処理工場と「もんじゅ」の行き詰まりによって国の原子力政策は完全に破綻 プルサーマルは一層やっかいな核のゴミの泥沼へ通じる道

---

国の方針（「原子力政策大綱」2005年）では、使用済MOXの処理の方策については、六ヶ所再処理工場や「もんじゅ」などの進展具体を見て、2010年頃から検討を開始するとしています。また、「原子力立国計画」（2006年）では、使用済MOXを処理する第二再処理工場は2045年までに建設開始が間に合うよう検討するとなっています。この「原子力立国計画」は、六ヶ所再処理工場と「もんじゅ」が2007年に本格運転を開始することを前提に作られています。

しかし現状はどうでしょうか。六ヶ所再処理工場はガラス固化ができずに完全に行き詰まっています。「もんじゅ」も運転再開の目処さえ示すことができなくなっています。このように、国の政策は破綻しています。それなのに、プルサーマルだけは、今年秋から開始しようとしているのです。

さらに、「第二再処理工場」は、高速増殖炉（FBR）が商業炉として運転を開始した後の「軽水炉サイクルからFBRサイクルへの移行期」の中に位置づけられています。「原型炉」の「もんじゅ」がまともに動かないなか、「実証炉」「商業炉」の実現など夢物語に過ぎません。国は「第二再処理工場」に関する「予備的調査を進めている」として、今年3月には報告書を出す予定でしたが、それも出させないままになっています。

プルサーマルが始まれば、確実に使用済MOX燃料が生じます。通常の使用済燃料よりも長期に高い熱を出す厄介もので、六ヶ所再処理工場で再処理することもできません。原発現地が核のゴミ捨て場となってしまうのです。プルサーマルは、核のゴミの泥沼へと通じる道です。

再処理工場は、通常の運転で海や空に放射能をばらまきます。さらにもう一つ再処理工場を建てるなどともない話です。また、何も進んでいないFBRサイクルの研究開発として、今年度も500億円以上もの予算をつけています。「もんじゅ」の維持と運転再開費用だけでも約200億円の予算です。いつまで多額の血税を注ぎ込めば気が済むのでしょうか。

六ヶ所再処理工場と「もんじゅ」の行き詰まりによって、原子力政策の破綻は誰の目にも明らかになっています。そして使用済MOXの問題は、これら矛盾が集積した問題です。プルサーマルの実施をくい止めて原子力政策を転換させていくのか、核のゴミの泥沼へと入り込んでいくのか、今まさに、大きな岐路にさしかかっています。

---

## ◆ MOX燃料の装荷を止めよう

---

今年夏からの定検で佐賀の玄海原発3号機（九州電力）にMOX燃料が装荷されようとしています。このプルサーマル第一陣を、全国の力を結集して阻止していきましょう。

そのために、国に対して、質問・要望書を提出します。ぜひ、提出団体になってください。国への質問では、使用済MOX燃料の処理をどうするのか等具体的に問うています。また、原子炉等規制法では原発の運転に関して、使用済燃料の「処分の方法」が明記されなければなりません。現状ではこの法律に違反しているのではないかなどを問題にしています。交渉でこれらについて回答を得て、各地の運動に引き継いでいきましょう。

同様の趣旨で国会議員の意見書を集める活動も開始されています。各地から選出議員に対して働きかけを強めていきましょう。